（公財）山階鳥類研究所
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101　FAX：04-7182-1106
http://www.yamashina.or.jp

小笠原諸島聟島（むこじま）の新たなアホウドリ繁殖地
人工飼育個体の孫にあたる第 3 世代のヒナ誕生

＜環境省、東京都 同時発表＞

令和 4 年 2 月 1 日
(公財)山階鳥類研究所

小笠原諸島聟島におけるアホウドリの新繁殖地形成事業※において、東京都小笠原支庁からの委託で山階鳥類研究所が実施しているモニタリング調査の結果、

- 2008 年に鳥島から移送され、人工飼育により巣立った個体(オス、足環番号 Y01)と、今シーズン新しくペア相手になった 2009 年移送飼育個体(メス、足環番号 Y11)が営巣し、ヒナが孵化したことが 2022 年 1 月に確認されました。
- さらに特筆すべき成果として、2016 年に足環番号 Y01 の最初の子として生まれた個体(足環番号 Y75)も聟島に帰還し、別の野生個体(足環なし)とペアになって営巣し、ヒナが孵化したことが確認されました。**第 3 世代にあたるヒナの誕生は初めての事例です。**
- 新繁殖地である聟島で複数のヒナが誕生したのは初めてのことです。アホウドリは通常、巣立ち後 3-5 年で出生地に戻り、ペアリングし、コロニーで(同種で集まり)営巣する習性を持ちます。**聟島で複数のヒナが誕生したことは、第 3 世代の誕生に合わせ新繁殖地形成に向けて大きな進展となりました。**

※この事業は、（公財）山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て、国の特別天然記念物であり絶滅危惧種であるアホウドリの保全のため、小笠原諸島聟島に新しい繁殖地を形成する目的で、伊豆諸島鳥島のヒナの移送（2008～2012 年）と音声とデコイによる誘引（2007 年～）をし、モニタリング調査を実施しているものです。

1. 雛の孵化が確認されたペア
   - 2008（平成 20）年に巣立った移送飼育個体（オス、足環番号 赤色 Y01、14 歳）と 2009（平成 21）年に巣立った移送飼育個体（メス、足環番号 赤色 Y11、13 歳）
   - 2016（平成 28）年に巣立った第 2 世代個体（オス、足環番号 赤色 Y75、6 歳）と野生個体（メス、足環なし）

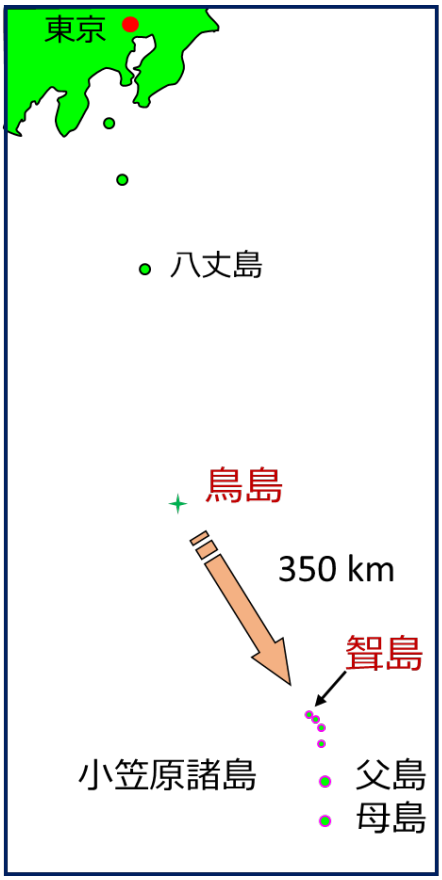
2. 確認場所

   聟島の北西部の雛飼育、誘引装置設置場所。Y01 は、足環なし個体とこの場所で 2016 年から 5 シーズン連続して繁殖に成功し 2020 年までに 5 羽の巣立ちが確認されていました。

3．確認の状況

2021 年 11 月のモニタリング調査において、上記の 2 ペアの営巣と抱卵行動が観察され、2022 年 1 月の調査においていずれの巣でもヒナが誕生したことが確認されました。ヒナは巣内で活発に動き親鳥から給餌を受けている様子も確認されました。

1 月のモニタリング調査では上記の 4 羽を含め、アホウドリ計 10 羽の飛来が確認されました。



聟島及び周辺の島におけるこれまでのアホウドリの繁殖状況

繁殖シーズン	聟島	媒島 (聟島から 7km 南)	嫁島 (聟島から 22km 南)
2012－13 年	1 卵(孵化せず)		
2013－14 年	1 卵(孵化せず)	1 雛巣立ち	
2014－15 年	1 卵(孵化せず)	1 卵(孵化せず)	
2015－16 年	1 雛巣立ち		1 雛巣立ち
2016－17 年	1 雛巣立ち		
2017－18 年	1 雛巣立ち ＋1 卵(孵化せず)		
2018－19 年	1 雛巣立ち ＋1 卵(孵化せず)		
2019－20 年	1 雛巣立ち ＋1 卵(孵化せず)		
2020－21 年	1 卵(孵化せず)		
2021－22 年	2 雛孵化		

＊アホウドリは 11 月に産卵し、雛は翌年 1 月に孵化し 5 月に巣立つため、繁殖は年をまたぐ

聟島で確認されたアホウドリの親（左：足環なし、右：Y75）とヒナ(第 3 世代、矢印)

聟島で確認されたアホウドリの親（足環なし）とヒナ(第 3 世代)

聟島でヒナに給餌するアホウドリの親（左：Y01、右：Y11）とヒナ（矢印）

撮影：山階鳥類研究所　提供：東京都（2022 年 1 月 10 日～14 日）

このほか写真、動画があります。 利用希望される方は連絡ください。

この件についての問い合わせ先
※写真のデジタルデータをご希望の方もお問い合わせください。
油田照秋　山階鳥類研究所 研究員
　メール：yuta@yamashina.or.jp
　電話：04-7182-1107、Fax：04-7182-4342
平岡考 山階鳥類研究所 広報コミュニケーションディレクター
　電話：04-7182-1101、Fax：04-7182-1106
　メール：hiraoka@yamashina.or.jp
山階鳥類研究所ウェブサイト: http://www.yamashina.or.jp/

＜参考＞

アホウドリ（*Phoebastria albatrus*）

ミズナギドリ目アホウドリ科

特別天然記念物、国内希少野生動植物種（種の保存法、1993 年指定）、

絶滅危惧 II 類（環境省レッドリスト 2019）

分布及び個体数

・繁殖地は、伊豆諸島鳥島と尖閣諸島

・非繁殖期には、北太平洋のベーリング海やアリューシャン列島、アラスカ沿岸まで移動する。

・1949 年の調査で一度絶滅したと考えられたが、1951 年に約 10 羽が鳥島で再発見された。1971 年には尖閣諸島で少数の生息が再発見された。

・減少原因は、1890～1900 年代に羽毛採取のために大量に捕獲されたことによる。

・保全活動の成果などもあり、現在個体数は約 6,500 羽（尖閣個体群は除く）まで回復したと推定されている。

形態及び生態

・成鳥は全長が 84～94cm。翼開長は 220-240cm。

・巣立ち時の羽衣外観は全身黒褐色で、加齢に伴い白い部分が多くなる。決定羽とよばれる最終的な外観は全体に白く、風切羽や尾羽が黒い。頭部は淡黄色。決定羽になるまでは 7～15 年ほどかかる。

・繁殖期は 10 月～翌年 5 月。

・巣立ち後 3～4 年で巣立った場所に帰ってくる。5 歳前後から繁殖に参加するが、巣立った場所で繁殖を行う傾向が強い。

アホウドリの小笠原再導入

現在、アホウドリのふたつの繁殖地のうち、伊豆諸島鳥島は活火山であり、万一噴火があった場合には、アホウドリの個体群に大きな影響が出る可能性がある。もうひとつの繁殖地である尖閣諸島は、繁殖状況の調査や保護活動を行うのが難しい現状である。このため、過去にアホウドリが繁殖していたことが知られている場所から、1 カ所を選んで、アホウドリの営巣地を復活させることで、本種の復活を一層確実にすることが望ましいと考えられた。このために山階鳥類研究所では、生まれた場所に戻って繁殖する同種の習性を利用して、ヒナの移送により小笠原諸島聟島に繁殖地を作ることとした。2008 年から 2012 年の 5 年間に合計 70 羽のアホウドリのヒナを鳥島から聟島に移送して人工飼育し、69 羽を巣立たせた。聟島の飼育地には 2009 年から野生のアホウドリの飛来が観察されるようになり、2011 年からは人工飼育した個体の帰還が認められた。2012 年 11 月 14 日には、2008 年に巣立ちした人工飼育個体（足環番号 Y01、オス）と野生個体（足環なし、メス）の間に初めて産卵が確認され、2016 年には、同ペアから初めて巣立ち雛が確認された。このペアはその後 2020 年まで 5 年連続で雛を巣立たせていたが、2020-21 年シーズンでメスの野生個体が繁殖地に帰還せず、聟島での繁殖成功が途絶えてしまった。聟島から巣立った個体は 2019 年に初めて観察され（2016 年に巣立った個体、足環番号 Y75）、翌年も次の年に巣立った個体(Y76)の帰還が確認された。

なお 2014 年 5 月に、聟島から約 5 キロ南の媒島（なこうどじま）において、人工飼育個体（2009

年巣立ち、足環番号 Y11、メス）と鳥島で生まれたオスとの間で 1 羽の雛が誕生したことが確認されている。また 2016 年 5 月には聟島から約 22 キロ南の嫁島(よめじま)で雛 1 羽が確認されている。この雛の親鳥は不明だが、この事業で人工飼育して巣立たせた個体、あるいは同事業で誘引された個体と推察されている。

この事業は、（公財）山階鳥類研究所が、環境省、東京都、米国魚類野生生物局、三井物産環境基金、公益信託サントリー世界愛鳥基金等の支援を得て実施している。

（以上）